



☆ みんなへ

新学期が始まって、新しいクラスのメンバーを覚えたか、覚えないうちのうちに、また臨時休校期間に入りました。ただ、有り難いことにクラス開きを終え、授業も一度スタートした上での今回の休校なので、この期間、何をすべきかはみんな充分分かってきていることと思います。

もう1週間余りが経ちました。この後、本来であればゴールデンウィークに入り、部活動を始め、いろいろな活動を頑張る時期かと思いますが、今年は「我慢ウィーク」、いろいろ制約を受けることになりそうです。

ところで、毎日、規則正しい生活を送ってくれていますか？

臨時休校ではありますが、みんなの学習活動までお休みということではありません。

外出は自粛しなくてははいけません、日々の家庭学習はもちろんのこと、規則正しい生活習慣を守り、身体を動かす工夫をしながら、心身ともに健康を維持する行動をお願いします。

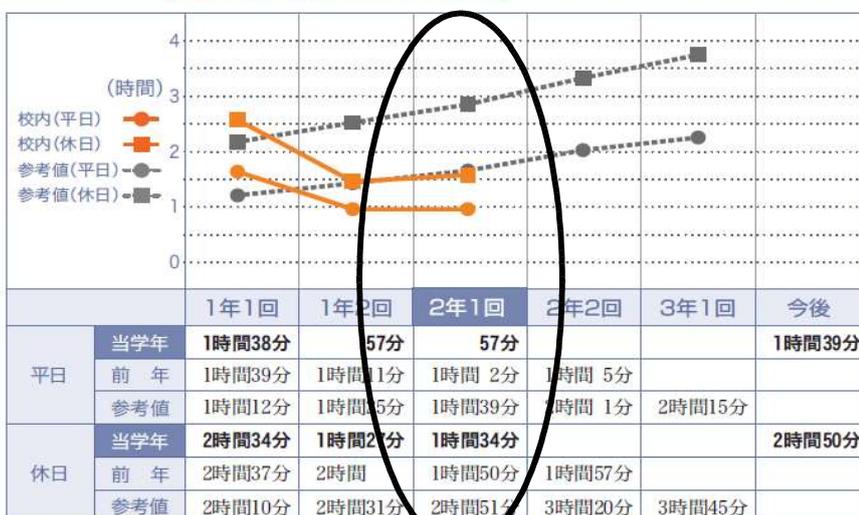
連日の報道を見ると、本当にいろいろなことが延期・中止になって、何もできないやっという、ちょっと悲しい気持ちになってしまいがちですが、こういう混乱の時期には、できることを着実にやってきた人と、そうでない人、やったか、やらなかったかの差が、はっきり現れます。できないことを、無理にやろうとするのではなく、やるべきことを、着実にやるのが大切です。

- やるべき課題は、分かっている
- 自分の得意、不得意は把握している。
- 得意・不得意と、好き・嫌いとは別である。
- あとは、時代や環境や体制の問題でなく、一人ひとりの姿勢・意欲の問題である。
- 自分で、自分をコントロールできるか？

自己管理能力、自主「自律」っていうのが、本当の意味で試されている。

勉強が出来るとか出来ないとかということではなく、一人ひとりの人間性、物事に向かう姿勢が問題なのです。混乱の時期だからこそ、自分を見失うことの無いように。例えば、3月、4月と、家でだらだら過ごして、勉強ができるようになるわけないから。先生に言われなから、直せないとか、親がうるさいからイライラするとか、そんなの全て、やらない自分をごまかしてるだけだから。やらなければ、もっと苦しくなるし、後で取り戻すのにより大きな努力が要ることなんて当たり前だから。こういうことが考えられるのが「ガタ高生」の強みじゃないのかな？ ぜひ、こういうことのできる人であって欲しいと思います。

③ 学習時間 ③ 学習状況リサーチ結果へ



※参考値は、難関大（G・T・Z：Sレベル）合格者の回答内容の平均値です。

← これで、ほんとに大丈夫？

2020年2年1回 スタサボ結果から

☆ こんな記事を見つけました

「文化を守るために寛容さを」劇作家・平田オリザさん



新型コロナウイルスによる不安が渦巻くいま、おはよう日本では、各界の方に生きるヒントや危機を乗り越えるための提言を聞きます。

1回目は、劇作家の平田オリザさん。文化を守っていくためにいまこそ社会に寛容さが求められていると言います。

(聞き手：高瀬耕造キャスター)

○ 文化芸術の連続した線が切れてしまう

高瀬キャスター：今日はよろしくお願ひいたします。

平田オリザさん：よろしくお願ひします。

高瀬キャ：行はずだった舞台とかコンサート、そういったことが軒並み開けないという状況ですね？

平田さん：初めてです。35年僕演劇やっていますけど、公演中止になったのも初めてなんです、劇団で。

それから、初日が開くかどうか分からない稽古を、ずっと続けるつらさっていうのも初めてです。そんなこと誰も経験していない。もう『不条理劇』をやっているみたい。

平田さん：負債を負ってしまって、演劇をやめてしまう人もあるかもしれない。あるいは2～3年、演劇上演できなくなる人もいるかもしれない。その中にあしたの野田秀樹さん、あしたの三谷幸喜さんがいたかもしれないんです。これはその個人の問題じゃなくて、最終的に社会全体の損失でしょう。文化芸術の連続した線が途切れてしまいます。

高瀬キャ：長い営みの連続性が断ち切られるのではないかと、という危機感があるということですね。

平田さん：清潔な社会に戻りました。でも映画もない、演劇もない、歌も聞こえてこない。絵画も生まれてこない。そういう社会でいいんですか？ってことです。日本は文化政策が非常に弱いところにこれが直撃してしまったので非常に苦しい状況にあります。ドイツの文化大臣は、芸術というのはただ単に必要なものだけでなく、生命維持装置だとまでおっしゃっていただいているので、人々にとって生きていく上で、どうしても必要なものだと。

○ 危機の時代だからこそ「寛容さ」が必要

高瀬キャ：いま、なかなか言い出しにくい、声を上げにくい状況でもあるのではないかと。

平田さん：そんなもの不要不急で、好きな奴らだけがやっているんだろうという、ネットでそういう厳しい意見も結構ありますのでね。もちろん命はみんな大事ですよ、それは守らなきゃいけない。だから当然、自粛もしなきゃいけない。一方でですね、命の次に大切なものは一人一人違うんだと思うんです。音楽がなきゃ生きていけないという人もいれば、スポーツが生きがいの人もいます。で、命の次に大事なものは一人一人違うから、そのほかの人が大事にしていることに思いをはせる、寛容になるってことが今こそ必要なんだと思うんです。演劇、今行けなくて残念ですね、と。私は家で映画見てますけれど、この映画の主演の人ってもともと演劇出身なんですよ、とかっていうふうに他者にちょっとずつ寛容になるって事が大事だと思うので。

何に救われるかは一人一人違うので、あなたは必要ないかも知れないけど必要としている人がいるということですよ。

高瀬キャ：いまやっぱり余裕がない、なかなかその寛容さを持ってないということは言えますよね。

平田さん：ネットで厳しい言葉を投げかける人にほど、アートを届けたいんですけど、そこに届かないっていうジレンマがありますね。人の心が、これ以上こう長く続くと壊れていってしまうって言うことですよ。それがいちばん、やっぱり怖いところですよ。文化というのは、いちばん目先の利益は出ないものなので、100年後、200年後への投資ですから、そういうものを大事にする社会になればいいなと思います。

☆ 引き続き、緊急メール、そして本校HPの内容に注意してください。「ガタ高ちゃんねる」もこの後随時更新されます。内容はもちろん、みんなの家庭学習の習慣づけの意味でも多めに活用しましょう。